

2022年度

高校受験コース 中1保護者会資料

◆君がワンランクアップする◆

駿台流学習法

駿台 中学部



高校受験コース 中1 2・3学期カリキュラム

教科	月	S/A クラス	Sp クラス
英語	9月	副詞・「時」を表す前置詞／人称代名詞のまとめ／存在を表す文	現在進行形 過去形
	10月	「場所」・「時間」・「日付」をたずねる文／itの特別用法	未来の表現／Will you～？, Shall I～？, Shall we～？／時制のまとめ
	11月	「年齢」・「身長」などをたずねる文／疑問詞のまとめ	存在の表現 助動詞
	12月	助動詞 can / may / must / 現在進行形	感嘆文／否定疑問・付加疑問／前置詞句
	1月	be 動詞の過去形／規則動詞の過去形／不規則動詞の過去形	名詞のまとめ／比較
	2月	過去形・前置詞のまとめ／会話表現	比較／会話表現・語句
数学	9月	方程式／関数	関数／式の計算
	10月	関数	式の計算／連立方程式
	11月	平面図形	合同
	12月	平面図形	合同
	1月	空間図形	1次関数
	2月	資料の整理	1次関数／まとめ
国語	9月	説明的文章／古文	
	10月	作文／説明的文章／短歌	
	11月	俳句／実戦問題演習／文学史の基礎	
	12月	古文／文学的文章	
	1月	文学的文章／説明的文章	
	2月	詩／古文	
理社 ※理科先行の場合		理科	社会
	9月	(物理)光の反射と屈折	(歴史)平安時代 鎌倉時代
	10月	(物理)凸レンズのはたらき 音の性質	(歴史)室町時代
	11月	(物理)力のはたらき	(地理)北アメリカ 南アメリカ・オセアニア
	12月	(地学)火山 地震	(歴史)ヨーロッパ世界の発展 安土桃山時代
	1月	(地学)地層	(歴史)江戸幕府と鎖国 産業と文化の発展
	2月	(地学)大地の変動の原因と災害	(歴史)幕府政治の移り変わり

◆君がワンランクアップする◆

駿台流学習法

★英語★

まずは英語の勉強を進めるにあたって常に念頭において欲しい項目を2つ挙げます。

① 動詞の形を意識しよう!

これからは、いろいろな疑問文・助動詞・進行形などを学んでいきます。これらの項目では、動詞を様々な形に変化させたり、逆に原形のままにしておいたりということを学習します。一見ややこしく思えますが、まず動詞の変化についての文法のルールを正確に身につけることから始めてください。

② 「肯定文・否定文・疑問文」の3点セットで覚えよう!

また、英語で新しい文法を習う時、特に上に挙げたような動詞を変化させる項目は、必ずと言っていいほど「肯定文・否定文・疑問文」の3点セットで学びます。(命令文の疑問文はありませんが)したがって、例えば、現在進行形の肯定文を習ったら、「次は否定文を学ぶはず」と心の準備をして授業を聞くと、よりよい理解が得られることでしょう。(ルールを先読みしながら学ぶと、学習効果が上がります)

次に、各単元の注意点を、動詞に関わる項目についてお話しします。

① 疑問詞・いろいろな疑問文

疑問詞を使った疑問文については語順が重要です。ポイントは2つです。

一つは、疑問文が be 動詞の文なのか一般動詞の文なのかということ。疑問詞は文の初めに来るので間違いませんが、文の本体の動詞が be 動詞か一般動詞かによって語順や文に入ってくる要素が変わってきます。疑問文を作るときには、まずこの違いを見極めてから考えましょう。もう一つは疑問詞が文の中のどんな要素であるのかということです。よく英文が与えられて「下線部を尋ねる疑問文を作りなさい」という問題がありますが、これを和文英訳でもできるように、文要素を正しくとらえる練習をしましょう。

(例) She plays the violin in her room. ← **Point!** 文は一般動詞の文、下線部は場所を表す

下線部を尋ねる疑問文にすると…

Where does she play the violin?
↑
場所を表す疑問詞にして文頭へ
一般動詞(三人称単数主語)の疑問文の語順

③ 助動詞 can, may, must

助動詞は今後も登場しますが、中1では can「～できる」(可能)、may「～してもよい」(許可)、must「～しなければならない」(義務)という基本的な意味と使い方を学習します。文科省の指導要領でも can だけは中1で習いますが、ここで助動詞という品詞をまとめて学習します。どの助動詞が出てきても動詞が必ず原形になっていることを常に確認してください。

③ 現在進行形

現在進行形の述語動詞の形が [be 動詞+～ing] であることをしっかりとおぼえましょう。初歩の段階では、[～ing] に気を取られ、be 動詞を書き忘れるという間違いが多いので注意が必要です。進行形にできない一般動詞 (know、 see、 want など) も暗記しましょう。

④ be 動詞・一般動詞の過去形

今まで学習してきた現在形と比べながら、過去形を学習します。be 動詞・規則動詞(原則として動詞の後ろに ed をつけると過去形になる)をまず覚えましょう。不規則動詞もかなり多くを学習します。よく使われる動詞ほど不規則動詞であることが多いので、これをしっかり覚えておかないと高校入試で十分な得点を狙うことができなくなります。

★数学★

2学期も半ば、算数から数学と名前が変わってから、正負の数・文字式・1次方程式の計算、文章題などを勉強してきたわけですが、これらの単元は中学数学の根本ツールと言える重要なものです。

数学は非常に抽象性の高い学問です。算数でも記号や文字の利用はありましたが、文字式の本格的な使用は中学数学からで、今後の数学の勉強は文字式を離れてはあり得ません。文字式が自由自在に使い、方程式がスラスラ解けるようにならないければ、これから複雑な問題を解く際にきっと苦戦することになるでしょう。

ところで、すでに苦手意識をもってしまった場合はどうしたらよいのでしょうか。答えは『やるしかない』です。まさに『学問に王道なし』で、結局は分かるまで・できるようになるまで取り組むしかないのです。また、今しかやる機会はないのです。後になればなるほど、学年が進めば進むほど理解すべき量は増えていきますし、難しさも増していきます。今ならば、ひとつキッカケがつかめれば芽づる式に理解が進み、『なんだ、こんなことが分からなかったのか!』となるに違いありません。毎回の授業の宿題、復習のほかに、方程式の解法の練習や、文章題の立式の練習(方程式の文章題にはパターンがあるので問題を見ただけで解法が浮かんでくるまで)を継続して行ってゆくとよいでしょう。

また、今後も関数・平面図形・空間図形と、やはり数学の基礎となるべき単元が続けて登場してきます。重要事項が目白押しですので、数学が得意という生徒にとっても油断は禁物です。

それでは、各単元の学習のポイントをあげておきますので、予習・復習の際の参考にしてください。

① 関数

まずは、「座標」という考え方に慣れることが大切です。平面上のどのような点も x 座標と y 座標の2つの数の組で表すことができます。これは、世界地図の緯度・経度や、マンションの部屋番号を思い浮かべれば分かりやすいでしょう。

中1の関数では、比例と反比例がメインテーマとなります。 y が x に比例するときや反比例するとき、 x と y の関係はどのような等式で表されるのか、また、グラフはどのように描かれるのかをしっかりと身につけておきましょう。特に、グラフとは直線にしても、曲線にしても、点の集合であるという考え方が大変重要です。

今後も関数を扱っていきますが、合否を左右するといっても過言ではないほど重要な単元です。まずは、「 y は x の関数である」とはどんな意味なのか、中1のうちによく理解しておいてください。

② 平面図形

最初に図形に関する用語や記号がたくさん出てきますので、それらの意味を確実に押さえておきましょう。中1では、作図と図形の移動が主なテーマです。コンパスと定規だけを利用して図を描いたり、平行移動・対称移動・回転移動とはどのようなものかを扱います。算数でもある程度学習した内容ですが、中学ではより厳密に考えることが要求されます。また、図形の計量（おうぎ形の弧の長さや面積など）もここで学びます。加えて作図の方法だけでなく、なぜそのような作図となるのかの根拠（図形の定理・定義・性質）も学びますので、これも必ず理解しておきましょう。

③ 空間図形

中1では、空間における点や直線・平面の位置関係をしっかりマスターすることが最も大切です。そのうえで、立体図形を展開図や投影図、回転体などを通して様々な側面から捉えていく見方を学びます。また、正多面体や立体の切断など高校入試で頻出のテーマもここで扱います。少し難しいテーマですが、がんばって理解してください。見取り図をたくさん描いてイメージ力を磨きましょう。

★国語★

2学期は、多くの学校で文化祭等の行事が催されるなど、充実した中学生を送ることもできる時期です。生徒にとっても忙しい時期ですが、こうした忙しさのなかでも、計画的に勉強の時間を作っておくことは非常に大切です。それというのも、自分の生活を見渡し、無理のない勉強計画を自分で立てられる、といった自律した生活習慣の確立が、結局のところ学力の伸び方にかかわってくるものだからです。国語の勉強も必ず計画性をもって進めてください。

◎古文の学習法について◎

2学期には「古文」が学習項目に入ってきます。これは、駿台のテキストでも、中学校の教科書でも同じです。中学校での古文の学習時間は、実はそう多くありません。ところがそれに比べ、高校の入学試験での古文の出題

のウェイトは、案外重いものです。大問が三題で構成されている試験では、そのうちの一題は古文である場合が多く、現代文一題と古文一題といった大問二題構成の入試問題を出題している高校もあります。

そこであらためて中学校での古文の学習量をみると、入試で出題されるという観点からすると量・質ともに不足していると言えます。駿台での古文の学習が不可欠になる理由はここにあります。高校入試の古文では、より多くの古文に接していることが、そのまま得点に反映すると言っても過言ではありません。

では、古文の学習法についてこれから述べていきます。

①くりかえし音読する

基本的なことですがとても重要です。すらすらと音読できるようになれば、自然とどこが単語の切れ目か分かってきます。また、きちんと音読できるということは、「歴史的かなづかい」と「現代かなづかい」の違いが自分の中に確実に定着したことを意味します。

②ノートに間隔をおいて古文の本文を写す

ノートはもちろん縦書きです。間隔を開けるのは、あとで書き込みをするためです。書き写すということは、それだけゆっくりと一語一語、古語を確認しながら進めるということです。授業前にここまでしておくといでしょう。読むこと・書くことで古文の文節へ意識が向くようになります。

③ノートに語句の意味・訳を書き込む

本文を写したノートの行間に、記憶しておきたい語句の意味、注意すべき訳を書き込みます。この書き込みは、本文とは別の色にすると見やすくなります。このノートを何回も見直して、頭の中に浸み込ませるように覚えます。普段使わない言葉だけにより意識して覚える必要があります。

④古文の原文だけを読んで定着したことを確認する

テキストは原文のままですから、これだけを読んでみます。訳が頭に浮かんでくれば、勉強は完了です。なお、中学校では、古典文法を体系的に指導しませんので（高校の学習項目です）あまり細かい助動詞などの訳出にこだわることはないでしょう。

今回は、古文の学習ということに的を絞ってお話しましたが、現代文の学習においても、全文を書き写すくらい丁寧さで本文を読んでいく心がけが大切です。かつて作家の卵の多くは、小説の神様、志賀直哉しがなおやの作品を書き写して学んだといわれます。中1の皆さんでも、たとえば石田衣良いしだいらや荻原浩おぎわらひろし、重松清しげまつきよしらの「大好きな一節」を長めに筆写したりするのは大いにすすめたいところです。テキストの論説・随筆文でも「なるほど！」という構成（話の組み立て）など積極的に自分の作文に活かしていくと、国語力は飛躍的に伸びていくはずですよ。

★理科★

2学期からの理科は物理・地学分野を学びます。

《物理》 光の性質／凸レンズを通る光／音の性質／力の働き／圧力

光の性質では「反射」「屈折」という物理現象のルールを、音の性質では「振動」と「音の大きさ・高さ」の決まりをしっかりと覚えましょう。また、用語も気を付けましょう。光も音も身近な現象であるため、細かな用語の区別をおろそかにしがちのようです。光では反射やレンズの像についての作図を何度も練習しましょう。音では速さの問題が扱われます。今更ですが、速さの計算は(単位も含め)、間違いないようにしておいてください。

力では見慣れない単位(N：ニュートン)が出てきます。理科でしか使わない単位なので、単位を意味からしっかり理解してください。これが更に「圧力」の単位(Pa：パスカル)につながるので、濃度同様に公式を意味のレベルから理解しておくことが大事です。2学期は作図・計算が多く出ますので、中1の理科の正念場です。

《地学》 火山と火成岩／地震／地層と堆積岩

火山に関わるものは暗記が中心ですが、地震は速さの計算が含まれます。地震計のグラフの読み取りなどにも、やはり理科以前の数学(算数)の計算力は必要です。

★社会★

社会では、地理分野で世界地理を、歴史分野では鎌倉時代～江戸時代までを学習します。

《地理》 世界の地域…アフリカ／北アメリカ／南アメリカ／オセアニア

世界地理で一番大事なことは世界地図を覚えることです。大陸・大洋はもちろんですが、世界の主な国々の名前と位置をまず頭に入れておいてください。テレビや新聞のニュース記事が出るたびに、国名から場所を確認していく習慣をつけると苦労せずに覚えられます。その上で、それぞれの国や地域を学んでいくわけですが、その際は必ず気候・風土と歴史・文化を意識しながらそれぞれの国の特記事項を覚えていきましょう。人間の営みである産業や文化は、多くはその地域の気候や風土、歴史にその原因を持つので、「背景」を考えながらそれぞれの暗記事項を見ていきましょう。

《歴史》 鎌倉時代／室町時代／ヨーロッパ世界の発展／安土桃山時代／江戸幕府と鎖国／産業と文化の発展／幕府政治の移り変わり

日本の歴史は、朝廷と幕府の関係、国土(土地)管理の仕方、外国との関係に気を付けて見ていくと、それぞれの暗記項目が意味とつながりを持って見えてきます。歴史は出来事の連続ですが、その方向を決める要因が見えてくると覚えやすく、また用語の説明もできるようになります。

図版や写真も重要です。資料からその属する時代と背景を説明できるように、図版は「見所」を意識して眺

めるようにしましょう。

それから、少しですがキリスト教文化の流入に関わる世界史も出てきます。

暗記は一問一答式で覚えていくことは有効です。その際には漢字表記のものは必ず正しく覚えてください。

例：「六波羅探題(ろくはらたんたい)」、「勘合貿易(かんごうぼうえき)」等々

ただし「用語の説明」が問題文となり、「用語」が解答となっているパターンに慣れ過ぎると、その逆の「用語」の意味・説明を問う問題文のパターンに対応できなくなる弊害が出てきます。

例：(問) 17世紀末から18世紀初めにかけて、^{かみがた}上方を中心に発達した町人文化は何というか←「用語の説明」
(答) 元禄文化 ←「用語」

これに対し、

(問) 元禄文化とは何ですか。^{かみがた}「上方」という言葉を必ず使用して簡潔に説明しなさい。←「用語」
(答) 17世紀末から18世紀初めにかけて、^{かみがた}上方を中心に発達した町人文化←「用語の説明」

このような、用語の説明を求める「記述式」の問題は実は公立高校の入試問題には必ず出題されます。早期から「用語」を覚える際には、用語を構成するキーワード(「17世紀末から18世紀初め」「上方」「町人文化」)を意識しておくようにしましょう。

また、社会の勉強でよく「ノート作り」という作業が有効な学習法として挙げられます。教科書、ノート、授業で扱ったプリントを用意し、教科書の流れに沿って、ノートやプリントの情報を、別のノートにまとめ直す作業ですが、やりこむと意外ときりがなく時間がかかり過ぎることがあります。目的はあくまでも「情報の集約と整理」なので、テスト前などで時間があまりないときは、授業ノートをコピーして、それに色づけしたり、情報を加えていってまとめたりなどの工夫をしましょう。「きれいなノート作り」が目的にならないよう気を付けてください。

以上、駿台での2学期に学習する単元から初めて英数国理社のそれぞれの学習法アドバイスをお話いたしました。

すぐにすべてこの通りにできることは理想ですが、まずは勉強する際にこれらのことを強く意識していくようにしてください。学習法は習慣化して身に付けていくものです。2学期～冬期の間にかけて駿台の復習や学校の課題をこなす時に、漫然と行うのではなく、効果が上がる上記の学習法を意識して行ってください。やがて、自然とこれまでお話したスタイルで学習できるようになり、これまでより勉強の成果が上がるようになっていきます。